

## 1 研究主題

「未来の自分や地域を見すえ、よりよい社会を目指して学び続ける子どもの育成」  
～3Cを育む探究的な活動の工夫～（2年次）

## 2 主題設定の理由

グローバル化が急速に進み、社会の在り方が急速に変化している現代社会は、環境問題や民族間対立、貧困等、様々な問題を抱えており、将来を見据え持続可能な社会の構築が急務となっている。この

先行き不透明な現代においては、社会に対応し、自分の未来を切り拓いていく子供たちを育成すること

が求められており、いかなる資質・能力を育成していくのかを明確にしていく必要がある。

新学習指導要領においても、前文及び総則、各教科・領域等において「持続可能な社会の創り手」の

育成が通底にあり、学校で展開される教育課程全体において実現していくことが求められている。ここでは、「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）、「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間のつながりを踏まえた教育課程の編成）、「どのように学ぶか」（主体的・対話的で深い学び）が重視されている。

このような状況から、学校においても持続可能な社会の創り手を育成するという視点で、社会に関

わった教育課程を実践していくことが必要である。自分が住む地域の将来の姿を、持続可能な社会の構築という視点から見つめ、今自分ができることは何かを考え、行動する児童を育成することが大切である。そのためには、自ら課題を見だし、課題の解決に向けて計画し、実践できるプロセスを身に付けさせることが肝要だと考える。

本校児童の実態として、学習に受け身で主体的な学びに課題があることや、表現力が弱く積極的に外部の人との関わりをもつことが苦手なことなどが挙げられる。また、小規模校のため他者と交わる機会が少ないため、やや自己評価が高い傾向にある。R2年6月に2年生以上の全児童を対象に行ったアンケートでは、「友達の考えを聞いて自分の考えが増えたり、新しい考えを思いついたりする」「進んでやりたいことを見つけることができる」において8割以上ができていると答えているが、実情とは異なり、自ら意見を述べたり他者の意見と比べて自分の考えを述べたり姿は少なく、聞いて感想をもつ所にとどまっている。地域については95%以上が肯定的な回答をしており、良さを感じ取ってはいるが、地域が抱える問題について知っている児童は少なく、課題を見いだすという意識も育っていないと言える。

このような実態から、国立教育政策所が示す持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development:ESD）で育てたい資質・能力の7つの力を参考に、本校においては「Communication（コミュニケーション力）」「Care（他者への思いやり、相手への配慮）」「Continuity（継

続する力）」の3Cを重点的に育んでいく必要があると考える。この3Cを育むために、

①教育活動全体で教科等横断的に資質・能力を育成していくカリキュラムマネジメント

②問題解決的な学習過程の充実

に取り組むこととする。①については、教科等横断的に単元を構成したり、地域人材の活用等を行ったりしながらカリキュラムマネジメントを実現させる。②については、総合的な学習の時間における

問題解決型の授業スタイルの構築，全学年で児童が主体的に問題を解決したり，他者と協力して課題を追究したりする探究型の授業を確実に実践していく。その中で，自ら課題を見いだし，解決していく学習活動を繰り返していくことで，他者と協働しながら解決できる力を身に付け，地域の方とつながり，よりよい社会の実現に向け行動できる児童の育成ができると考え，本主題を設定した。

1年次は，児童が3C「Communication（コミュニケーション力）」「Care（他者への思いやり，相手への配慮）」「Continuity（継続する力）」を発揮しながら探究活動を行えるように，カリキュラム・マネジメントを通して生活科及び総合的な学習の時間の単元作りを行ってきた。その際，

- ・児童が他教科等で学習したことを活用できるよう教師が意図的に単元を構成していくこと
- ・地域にある「人・もの・こと」をどのように活用していくかということ
- ・ESDとどのように関連付けていくかということ

を留意点とした。これらのことは『西郷小ESDカレンダー』に明記することで，年間における単元の位置付けや他教科等及び地域資源等との関係性が一目で分かるようになった。

また，児童主体の問題解決的な学習となるように，「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究過程を，意図的に繰り返すようにした。そのためには，まず「課題の設定」の時間を十分確保し，児童一人一人が「私の課題」を設定し，解決に向けて切実感をもてるようにした。次に，児童相互の情報交換の場や児童と地域資源・人材と関りを深める場を効果的に配置し，新たな課題を見いだす機会とした。さらに，思考ツールを活用することによって，児童が自ら情報を整理・分析したり，振り返りを行ったりすることができるようにした。

研究の課題としては，「探究課題に関して期待する概念的知識」や「本単元で育成を目指す概念的知識」を，予め設定しておくことが挙げられる。そうすることで，どのような人・もの・ことと出会わせ，どのように単元を展開し，最終的にどのような子供たちの姿を期待するのか等，指導の意図をより明らかにしながら単元作りができると考える。1年次に作った単元を充実・深化させていくと共に，新たな単元作り着手していく予定である。

2年次に重点的に取り組むこととして，以下の3点とする。

#### (1) 単元でめざす目標と児童の実態に応じた「単元ものがたり」の作成

単元計画を作成する際には，まずその単元で身に付けさせたい概念的知識を設定し，児童が学習対象との関わりを通してどのように獲得していくのか流れを意識し，「単元ものがたり（単元の進め方イメージできる流れがわかるもの）」を作成する。

探究課題に応じた概念的知識の作成の際は，【多様性】【相互性】【有限性】の3つの視点から設定し，本単元で育成を目指す資質・能力を明確にする。また，知識・技能の観点については，①概念的知識獲得のために必要と思われる個別の知識や経験②本単元で育成を目指す概念的知識③探究課題に関して期待する概念的知識の段階の評価項目を設定することで，習得すべき知識・技術を明らかにする。

#### (2) 探究の過程をスパイラル的にまわしていく手立て

設定した概念的知識を確実に身に付けさせるために，探究の過程において，以下の過程を踏む。

「課題の設定」については，単元の導入で児童に興味・関心をもたせるため，地域の方の話や動画視聴などを行い，単元内容との出会わせ方を工夫する。また，児童が「私の課題」を設定するための時間を十分確保する。

「情報の収集」「整理・分析」については，比較する，関連付ける，分類する等の目的に応じた思考ツールを使って，情報を集めたり，集めた情報を整理したりしていく。

「まとめ・表現」では，新聞やプレゼンテーション等，発達段階に応じたまとめ方を考えたり，級友や異学年の児童，保護者等の発信する相手を考えたりしながら，複数回表現の場を設けていく。

(3) 生活科・総合的な学習の時間を軸にしたESDカレンダーの活用（カリキュラムマネジメント）

児童の実態に基づき、教師との意図的な学習への手立てを講じた『単元ものがたり』を実践していくことで、「西郷小版 ESD カレンダー」の内容が深まり、教科横断的なカリキュラムになると考える。今年度は、生活科・総合的な学習の時間を軸に、他教科における学びや地域にある学習材が更に有機的に結びつき、往還するシステムを構築し、より深い学びを生み出すESDカレンダーの作成を行っていく。

3 目指す児童像と研究構想図

学校教育目標 一人一人が意識して学びの道にいそしむ西郷っ子の育成

【研究主題】

「未来の自分や地域を見すえ、よりよい社会を目指して学び続ける子どもの育成」  
～ 3C を育む探究的な活動の工夫～

校内研究における目指す児童像

Three empty rounded rectangular boxes for describing the target student image.



探究の過程 (①～④がスパイラル的に繰り返されていく)

① 課題の設定

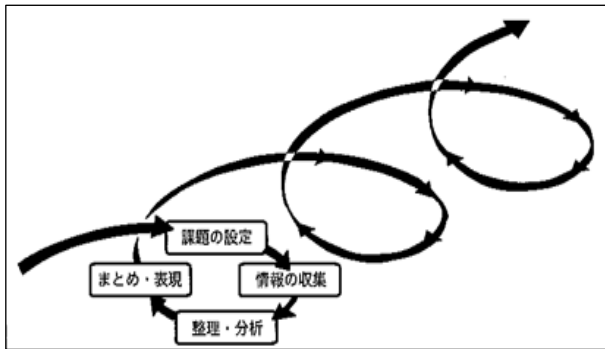
【私の課題】

・身近な出来事や過去の  
経験を通して課題を  
見いだす  
(出来事, 経験等)

Three empty rounded rectangular boxes for the process of inquiry.

関連する学習（教科等）

理科・・・西郷の自然  
社会・・・昔の暮らし  
国語・・・手紙の書き方  
伝えよう〇〇  
算数・・・統計の出し方  
英語・・・外国の文化



活用する材

吉田絃二郎・大倉邦彦  
尾崎人形  
クリーク講演 姉川城  
神崎市情報館 公民館  
稲作（農業）  
日の隈窯

単元ものがたり

どのような人・もの・ことと出会わせ、どのように単元を展開し最終的にどのような子供たちの姿を期待するのか、指導の意図を明らかにしていく。そうすることで単元が向かうべきイメージや方向性をもつことがで

単元の概念的知識を明確にした評価と指導計画

- ①探究課題に関して期待する概念的知識
- ②本単元で育成を目指す概念的知識
- ③概念的知識の獲得のために必要と思われる個別の知識（事実に知識）や経験

多様性	相互性	有限性・循環性
公平性	連携生	責任性

#### 4 研究内容及び方法

##### < 1 年次 >

##### (1) 研究内容

##### ① 3C の育成につながる単元づくり 〈カリキュラムマネジメント〉

- 生活科・総合的な学習の時間と他教科の横断的な単元構成の工夫，試行。
- 地域にある「人・もの・こと」を活用した単元構成の工夫・試行。
- 「ESD カレンダー（仮称）」の作成。

##### ② 問題解決的な学習過程の充実

- 探究の過程を充実させる手立ての工夫。
- 児童相互，児童と地域のつながりや関わりを深める場の設定。
- ESD コーナーの設置と掲示内容の工夫。

##### < 2 年次 >

##### (1) 3C の育成につながる単元計画

- 単元でめざす目標と児童の実態に応じた「単元ものがたり」の作成。
- 探究課題に応じた概念的知識を設定することで，本単元で育成を目指す資質・能力を明確にする。  
【多様性】【相互性】【有限性】
- 資質・能力の育成を明確にした評価の作成。

具体的な研究内容	手立て
課題設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールを見通して進む場合や小さな単元を複数回回すために，小さなゴールを設定する。</li> <li>・出会わせ方の工夫 例) アンケート，写真や動画，地域の方の話など</li> </ul>
整理・分析の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考ツールを活用していく。 (比較する，関連付ける，分類するなど)</li> </ul>
まとめ・表現する場の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ方：新聞，論文，プレゼンテーション</li> <li>・発信相手：異学年，保護者，神埼中，神埼高校，西九州大学等</li> </ul>

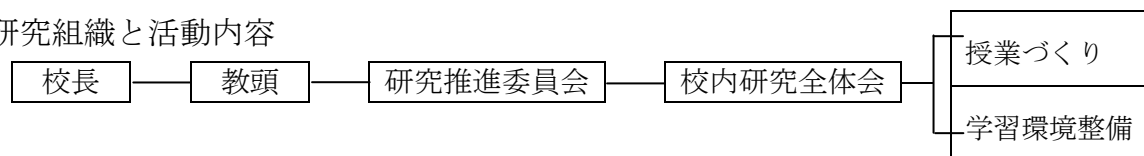
##### (2) 探究の過程をスパイラル的にまわしていく手立て

(3) 生活科・総合的な学習の時間を軸にしたESDカレンダーの活用（カリキュラムマネジメント）

○1年次に行った単元で活用した地域資源の整理，深化

○新たな単元の開発と実践

## 5 研究組織と活動内容



### (1) 研究推進委員会

①校内研究の主題・副題・内容についての骨子を作成

②校内研究全体会で積み残された問題点や疑問点の最終的な協議，解決

③メンバー（校長，教頭，教務主任，研究主任，副主任，学力向上コーディネーター，学び部部长）

### (2) 研究組織

#### ①授業づくり

・全職員を低・中・高学年の3グループに分け，検証授業・授業研究会，環境整備

・学習意識調査・各種調査の実施，分析，課題の洗い出しと手立ての研究

・メンバー 低学年・・・大久保，杉本，小林，江頭，中山は

中学年・・・川浪，川口，永田，菊田，教頭，

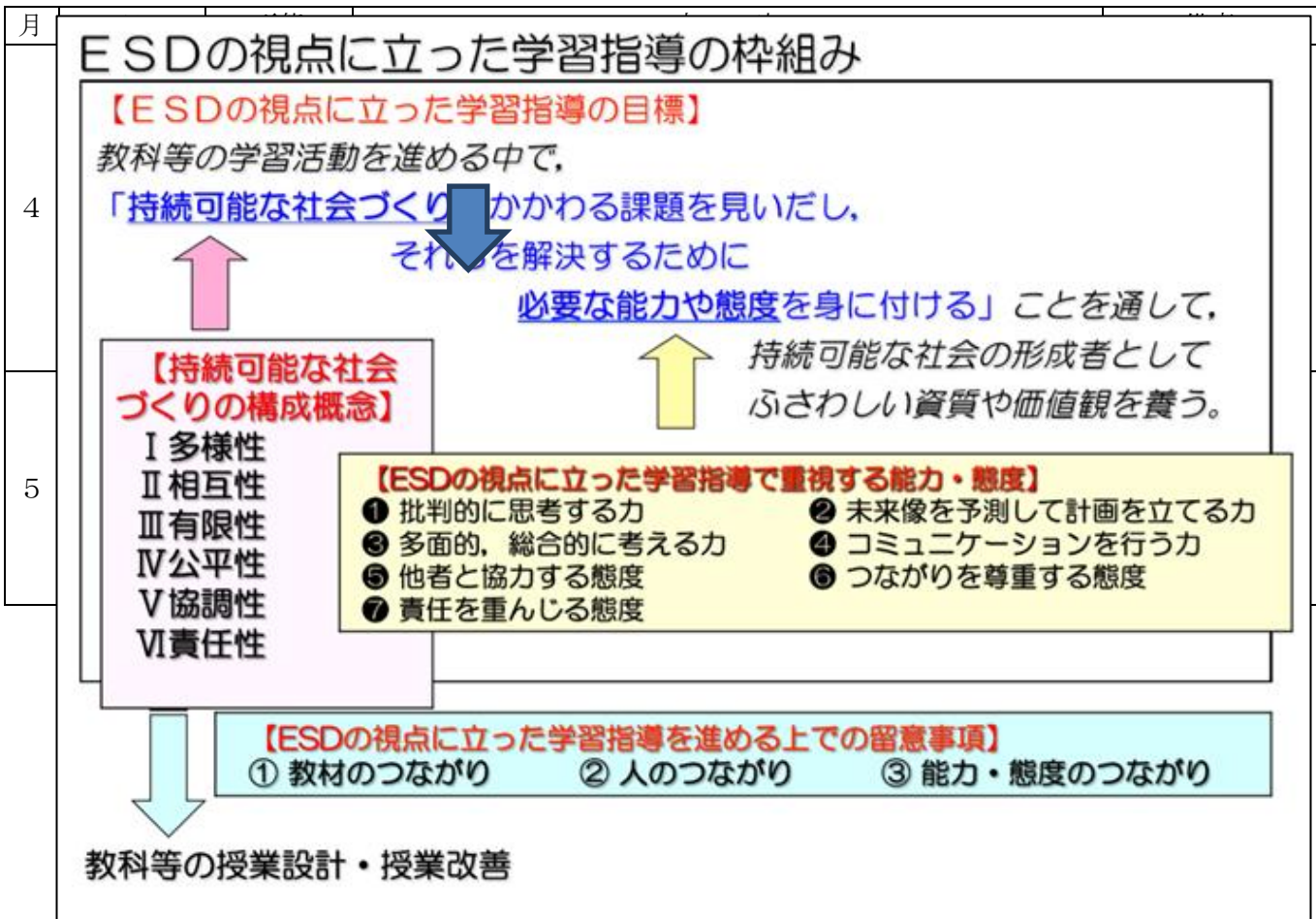
高学年・・・山下，中山し，笠原，教務主任，栄養教諭，校長

#### ②学習環境整備

・研究推進委員会を中心にESDコーナーなどの掲示物に関する活動を中心に行う。

#### ③校内研究全体会

・研究推進委員会の提案について協議，共通理解，本年度の研究についての理論研究，また実践を通した指導方法等についての研究を実施



ESDの視点に立った学習指導の枠組み

出典：国立教育政策研究所プロジェクト研究 「学校における持続可能な社会の構築のための教育（ESD）に関する実践的研究」

6 研究経過

6	1(火)	推進委	・2年間の研究のまとめについて、どのように検証していくかの確認	
	16(水)	全体会⑥	・「3Cを育む探究的な活動の工夫」の検証について【演習】	
	23(水)	打合せ	・全体授業研究会Ⅰの打ち合わせ (梶原指導主事, 杉本, 川浪 @西郷小校長室)	
	29(火)	推進委	・全体授業研究会Ⅰの内容検討	
7	7(水)	全体会⑦	<b>*全体授業研究会Ⅰ</b> 2年1組杉本菜摘教諭 生活科『どきどきわくわくまちたんけん』 講師: 東部教育事務所 梶原康裕指導主事	
	29(水)	校内研修	・各学年グループで単元計画や指導案作成, 授業準備	
8	25(水)	全体会⑧	・講話・ワークショップ: 梶原指導主事 「生活科・総合的な学習の時間の授業作りのヒント」	
	31(火)	推進委	・2学期の計画確認	
9	8(火)	全体会⑨	・全体授業研究会Ⅱについて グループで単元計画や指導案作成, 授業準備	グループ研 (～11月末まで 随時実施)
	30(木)	打合せ	・全体授業研究会Ⅱの打ち合わせ (梶原指導主事, 中山, 川浪 @東部教育事務所)	
10	5(火)	推進委	・全体会⑩の提案内容検討	地区内学校への案内 県指導主事招聘
	13(金)	全体会⑩	<b>*全体授業研究会Ⅱ</b> 6年1組中山俊介教諭 『西郷のまちの自慢を伝えよう』 講師: 東部教育事務所 梶原指導主事 (長崎国際大学 浦郷淳先生参加)	
	22(金)	打合せ	・全体授業研究会Ⅲの打ち合わせ (梶原指導主事, 川浪 @東部教育事務所)	
11	9(火)	推進委	・全体会⑪の提案内容検討,	県内学校への案内
	10(水)	全体会⑪	・研究のまとめについて提案	
	10(水)	打合せ	・全体授業研究会Ⅲの打ち合わせ (梶原指導主事, 川浪 @東部教育事務所)	
	17(水)	全体会⑫	<b>*全体授業研究会Ⅲ</b> 3年1組川浪博文教諭 『西郷地区の偉人を未来につないでいこう』 講師: 東部教育事務所 梶原指導主事 <b>【公開授業 県内から参観者】</b>	県指導主事招聘
26(金)	全体会⑬	・講話「生活科・総合的な学習の時間の単元, 授業づくり」 長崎国際大学 浦郷淳先生		
12	8(水)	全体会⑭	・研究のまとめ作成(学年グループで)	・児童意識調査② ・職員アンケート②
1	5(水)	推進委	・来年度の研究についての意見交換 ※研究のまとめの原稿検討	

	17(水)	全体会⑮	・来年度の研究について	
2	1(火) 9(水)	推進委 全体会⑯	・研究のまとめ(冊子)確認, 来年度の研究の方向性について ・研究のまとめ(冊子)読み合わせ, 総括, 来年度の研究の方向性について	本庄小参観
3	28(月)	推進委	・来年度の研究についての確認	